

2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 26 日作成)

小委員会名	雪荷重・対雪設計小委員会		主 査 名：高橋 徹 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)		委員長名：緑川光正 主 査 名：高田毅士
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	雪荷重による建物被害調査並びに情報収集を行うと共に、気象データから適切な設計荷重の設定を検討し、指針として世に問うことで、設計技術の向上を図る。 初年度：雪荷重による建物被害調査を継続的に行って分析し、対雪設計に生かす。 2 年度：最新の知見に基づき「建築物荷重指針」の改定を行い、解説を執筆する。 3 年度：上記指針を補完する関連資料集を執筆して発刊し、講習会を行う。 4 年度：降雨を考慮した雪荷重に関するシンポジウムを企画する。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 主査：高橋 徹 (千葉大学) 幹事：堤 拓哉 (北方建築総合研究所)、千葉隆弘 (北海道科学大学) 委員：和泉正哲 (大崎総合研究所)、大塚清敏 (大林組)、菊池浩利 (清水建設)、小坂橋裕一 (日建設計)、小竹達也 (大成建設)、桜井修次 (北海学園大学)、苔米地司 (北海道科学大学)、富永禎秀 (新潟工科大学)、中島 肇 (日本大学)、前田博司 (-)、三橋博三 (東北大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	降雨を伴う雪荷重の評価 WG： ・設計実務者を中心に構成し、降雨を伴う雪荷重の実態把握と対策方法について小委員会と一体となって議論を行う。		
2016 年度予算	480,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s25/	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 2016 年度は、建築物荷重指針 (2015 年 2 月発刊) ならびに設計資料 1 (2016 年 2 月発刊) を受け、その英文化の準備と 2017 年度に企画するシンポジウムの準備に費やした。
委員会活動の問題点 ・課題	1. シンポジウムでの議論などを踏まえた「雪と建築」改定版の発刊をめざしたいが、次期委員会に委ねることとする。